

【茨城県から世界へ！ JICA 海外協力隊】

2023年度2次隊 茨城県各自治体への表敬訪問

国際協力機構（JICA）は、10月～11月に茨城県から7名のJICA海外協力隊員を2023年度2次隊として派遣いたします。隊員は、任国への出発を前に、下記のとおり茨城県知事及び市長を表敬訪問いたします。つきましては、貴社媒体にて、茨城県出身のJICAボランティアを県民の皆様にご紹介いただけましたら誠に幸いです。

1. 表敬訪問日程

表敬先	日時・場所	表敬者（敬称略）
茨城県 副知事 横山 征成	2023年10月6日（金） 11：30～12：00	同県 JICA 海外協力隊員 7名 高田 優佳、鈴木 皓子、 伊藤 健二、久保田 畔菜、 菊地 雄登、谷口 晋、瀬戸 凌平、
取手市 副市長 吉田 雅弘	2023年10月4日（水） 11：00～11：30	高田 優佳
守谷市 市長 松丸 修久	2023年10月4日（水） 14：00～14：30	鈴木 皓子
つくば市 副市長 松本 玲子	2023年10月10日（火） 11：00～11：15	伊藤 健二 久保田 畔菜
鹿嶋市 市長 田口 伸一	2023年10月10日（火） 15：00～15：30	菊地 雄登
水戸市 市長 高橋 靖	2023年10月11日（水） 14：30～15：00	谷口 晋
牛久市 市長 沼田 和利	2023年10月11日（水） 11：30～12：00	瀬戸 凌平

2. JICA 海外協力隊 リスト

隊員区分	氏名	職種	国名	配属先
青年海外協力隊	タカダ ユウカ 高田 優佳	コミュニティ開発	ベトナム	ムーカンチャイ郡 人民委員会
【活動内容と抱負】 小さい頃から英会話教室に通っていたことから海外に興味をもち、中学の社会の授業で青年海外協力隊について知り大きな憧れを抱き、将来は青年海外協力隊の一員として海外で活躍したいと思うようになりました。ベトナムではムーカンチャイという地域の観光開発に従事し、1番の観光資源である棚田の見学以外の観光資源の開発のため、現地の方々と一緒にマーケティングの開拓や土産商品の開発などを行う予定です。大学で専門に学んだ知識や、前職でのアクティビティ開発の経験を生かして、観光産業の更なる発展に従事したいと思います。				
青年海外協力隊	スズキ アキコ 鈴木 皓子	コミュニティ開発	ホンジュラス	セラケ山国立公園 市連合会
【活動内容と抱負】 もともと海外で働きたい気持ちがありましたが、近年の社会情勢の変化によってそういった機会が少なくなっていくのではないかと焦りがありました。青年海外協力隊の募集を見た時、マーケットリサーチとコンサルティングを主な業務とする会社に勤めており、当時行っていた業務に近い要請があったため応募しました。派遣先はホンジュラスの国立公園を管理している NGO で、自身が長く趣味で登山をしていたこともあり非常に興味があるテーマでもあり、頑張っ活動してきたいと思っています。				
シニア海外協力隊	イトウ ケンジ 伊藤 健二	病虫害対策	パラオ共和国	農業局 バイオセキュ リティー課
【活動内容と抱負】 退職後、趣味のスキューバダイビングで綺麗な海と素晴らしい自然に感銘を受け、自然保護活動ができないものか模索しておりました。JICA という伝統のある組織での活動を通し途上国発展に力を注ぎながら、同時に自然保護活動の重要性、現地の取り組み等を学び、日本での自然保護活動に生かしたいと思っています。パラオでは果物の害虫であるミバエについての防除対策の検討を行います。現地での意識調査などを通して、日本とは異なる対策方法や改善点を検討し普及したいと考えております。				
青年海外協力隊	久保田 ハンタ 久保田 鮮菜	水産開発	コロンビア	マグダレナ大学
【活動内容と抱負】 私は大学院まで進学し身につけた生態学の知識を社会に生かすために協力隊に参加しました。活動内容はコロンビアのマグダレナ大学の水産学科で、研究室の学生とともに漁獲データなどを元にした調査結果を漁村コミュニティにフィードバックすることです。現地の方の要望と私自身のスキル内でできることをすり合わせ、学生たちと共に2年間の任期終了後も現地の方々が続けていけるような活動としたいです。				
青年海外協力隊	キクチ ユウト 菊地 雄登	体育	カンボジア	ポントラベック中高等 学校
【活動内容と抱負】 私はスポーツ指導や体育指導を通して開発途上国の人々の人生を豊かにしたいと考え、青年海外協力隊を志望しました。これまで教職員として様々な背景や夢を持った生徒たちと触れ合う中で、生徒に寄り添い夢を後押しできる教師になりたいと考えたこともきっかけの一つです。開発途上国の子どもたちに指導をすることで自分自身の指導力を向上させ、日本のスポーツ界のさらなる発展に寄与したいと考えます。現地では先生方と協力しながら子供達のスポーツ環境改善に取り組み、自身の専門種目であるサッカーの指導も行いたいと考えています。				
海外協力隊	タニグチ ススム 谷口 晋	品質管理・ 生産性向上	エクアドル	エクアドル木材産業協 会
【活動内容と抱負】 退職後の60代は海外にて国際貢献、70代は国内で国際貢献と決めていました。JICA 海外協力隊の2018-3次隊としてザンビアへ経営管理の職種で派遣された際は COVID-19 禍で途中帰国となりましたが、その後約1年半に亘りオンラインでサポートを続けました。2023年6月まで、独立行政法人 中小機構の認定中				

小企業アドバイザー（販路拡大）や東京入国管理局の英・仏語の認定通訳など国内において国際貢献を続けてきました。配属先の木材産業協会の運営する訓練校では、品質管理・生産性向上に関する授業の教案を教授たちと一緒に作り上げます。

青年海外協力隊	瀬戸 凌平 セト リョウヘイ	コミュニティ開発	ウガンダ	リーチアウトンコ ン ジェル パリッシュ HW/ADS イニチアチブ
<p>【活動内容と抱負】 高校時代から JICA 海外協力隊に対する憧れが強く、研修で訪れたケニアでの SDGs に関するワークショップやモヨチルドレンセンターでの活動を通して、社会人経験後には必ず国際協力に携わりたいと考えていました。帰国後はサセックス大学院に進学して専門性を高めることで国際協力の舞台上で活躍できる人材となり、最終的には日本の教育現場で子どもたちに私の経験を還元したいと考えています。現地では植作栽培に関する指導及び農作物生産向上や販路拡大に繋がるアドバイスや活動を行い、農家の所得向上に努めます。</p>				

3. JICA 海外協力隊とは

JICA 海外協力隊は、日本政府の ODA（政府開発援助）の一環として、独立行政法人国際協力機構（JICA）が実施する事業です。「開発途上国の経済・社会の発展、復興への寄与」、「異文化社会における相互理解の深化と共生」、「ボランティア経験の社会還元」を目的としています。

日本国籍を持つ 20 歳～69 歳の方が対象となり、派遣期間は原則 2 年間。日本で培った知識や経験を活かし、開発途上国と国際協力の志を持った方々が、現地の人々とともに生活し、草の根レベルで開発途上国の抱える課題の改善・解決に貢献します。

詳細は、JICA 海外協力隊 Web サイトをご覧ください。

<https://www.jica.go.jp/volunteer/index.html>

【本件に関する問い合わせ先】

JICA 筑波 ボランティア班 荒井英恵
 TEL : 029-838-1117
 E-mail : Arai.Hanae@jica.go.jp